

平成 26 年度 原子力発電所周辺環境モニタリングにおけるクロスチェック実施計画
(海水、海底土)

平成 26 年 5 月 9 日
福島県放射線監視室

1 目的

平成 25 年度に開催した福島県廃炉に関する安全監視協議会環境モニタリング評価部会における専門委員等からの意見を踏まえ、福島県と東京電力との間で環境試料のクロスチェックを行い、環境モニタリングデータの信頼性向上を図る。

2 実施機関

福島県原子力センター、東京電力㈱福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所
なお、放射線監視室が全体のとりまとめを行う。

3 実施内容

(1) 対象試料 海水、海底土

(2) 対象地点

①福島第一原子力発電所：南放水口付近 (T-2-1)、北放水口付近 (T-1)
(東京電力の測定計画に基づき採取する環境試料)

②福島第二原子力発電所：南放水口付近、北放水口付近
(福島県及び東京電力の測定計画に基づき採取する環境試料)

(3) 分析項目と測定装置

次の項目のうち、県と東京電力のそれぞれの測定計画に定める項目とする。

- ① γ 核種 : ゲルマニウム半導体検出装置
- ② トリチウム : 液体シンチレーション測定装置
- ③ 全 β 放射能 : ローバックガスフロー測定装置
- ④ ストロンチウム : ローバックガスフロー測定装置

(4) 実施方法

① 試料分割法 …… 採取現場で二分割し、それぞれの機関が前処理、測定する。

- ・ 福島第一原子力発電所：東京電力の調査（試料採取）に県が立ち会う
- ・ 福島第二原子力発電所：県と東京電力が同時に調査（試料採取）を行う

② 交換測定法 …… 測定後の海底土 (U8 容器) を相互に交換し、 γ 核種分析を行う。

(5) 実施頻度

4 回 / 年

ただし、分析項目の頻度は、県と東京電力のそれぞれの測定計画に定める頻度とする。

(6) 評価

① 実施機関は、測定結果（前処理及び測定の条件等を含む）をとりまとめ、放射線監視室に提出する。

② 放射線監視室は、測定値に相違が生じた場合の原因調査を行い、結果をとりまとめ、実施機関に通知する。

③ 実施機関は、測定者の技能向上、機器性能の維持等に努め、その状況を放射線監視室に報告する。

4 結果の公表

評価結果について、環境モニタリング評価部会において報告する。

以上